

施設ブドウにおけるクワコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長

金子修治

(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

大阪府内の施設ブドウにおいて、フェロモントラップによるクワコナカイガラムシ雄成虫の誘殺消長を調査した。フェロモンルアーを提供いただいた富士フレイバー(株)に深謝申し上げます。調査は、2016年と2017年に大阪狭山市の施設(品種レッドクイーン等2a、加温栽培、病害虫防除を含む栽培管理は慣行)で実施した。施設内中央部の高さ1.5mの位置にフェロモントラップ(サンケイ化学製SEトラップに粘着板を取り付けたもの)を各年の2月上旬から7月下旬に1台設置し、フェロモンルアーは1か月間隔、粘着板は6~10日間隔で交換して、誘殺された雄成虫を計数した。また、2017年には施設内中央部(高さ1.5m)の気温をデータロガーで記録した。

雄成虫の誘殺ピーク日とトラップ・日あたり誘殺雄成虫数は、越冬世代では2016年が3月28日と0.3頭、2017年が3月31日と0.7頭、第1世代では2016年が6月15日と17.0頭、2017年が6月22日と6.6頭であった。雄成虫の誘殺ピークは、越冬世代では小さく、やや不明瞭であったが、第1世代では大きく、明確であった。また、防除に重要な幼虫の孵化時期を知るため、本種の有効積算温度を用い、雄成虫の誘殺ピーク日を起算日として、施設内気温の計測値から幼虫の孵化ピーク日を算出した。その結果、2017年の第1世代は5月23日、第2世代は7月11日と推定された。なお、2018年にはバンドトラップを用いて幼虫の捕獲ピークを実測し、同年の気温から上記手法で推定される幼虫の孵化ピークが、実測を反映したものになるかを確認する予定である。

Seasonal occurrence of adult males of *Pseudococcus comstocki* (Kuwana) collected by a pheromone trap in vineyard greenhouse.

Shuji Kaneko

Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture